

令和8年度 第65回米子市美術展覧会（市展）

## 部門別審査講評 及び 市展賞作品講評

### 【洋画】

審査講評：

去年に比べれば、若干レベルが上がったように思うが、独創性の点から言えば、物足りないところがある。奇をてらった作品もないではないが、昨年ほどではない。小品でも落ち着いた画風の作品もあり、捨て難い所ではある。出きれば更なるレベルアップと作品数の増加を望む。

（評者：倉鋪 悠）

市展賞：西岡 和子・玉井 詞《空とぶシーラカンス》

相変わらず独創的な画風ではある。二人の合作ということだが、一人で描いているようにも感じられる。出きるならそれぞれ一人で描いた作品を見たい気がする。

（評者：倉鋪 悠）

市展賞：久米 恵悟《路》

お遍路さんだろうか？暗く沈んだ色調だが精神性を感じさせる。とぼとぼと歩いて行く先にあるのは、はたして心の平安なのだろうか。それとも…。

（評者：倉鋪 悠）

### 【日本画】

審査講評：

毎年のことだが、出品数が前より少ない。全体的に細部までいねいに描いてある作品が多かった。出品作品を見ていただいて、市展に出品してほしいです。

（評者：松岡 託司）

市展賞：該当者なし

### 【書道】

審査講評：

今年も昨年と同様の応募が有り嬉しい限りである。初出品で挑戦した方が多数見られ、書道にも新しい風が吹いて来たと感じた。しかし、篆刻、調和体の出品作が少なかったのは残念であった。

（評者：山田 龍香）

市展賞：田中 瑠璃《山亭夏日》

明清の時代の書風が基本と思われる。行間も程よく響き合い、自分の感性を生かした快い作品となっている。

(評者：藤山 雅鳳)

市展賞：木嶋 博美《名にし負はば》

多くの和歌を墨の濃淡を出しつつ、強い線で書作され、行の構成、余白のとり方も心地良く響く感じです。日頃の古筆の学びが紙面に出た作品です。

(評者：吉岡 芝香)

市展賞：仲田 旭豊《山居秋暝》

良寛調の雰囲気、この猛暑にさわやかな風をなびかせる感有り。好感が持てます。

(評者：森田 尾山)

#### 【写真】

審査講評：

今年は出展数の減少が気になった。例年市展は6月頃であったが、県展の出展時期と重なったり、要因は色々考えられるが…。入賞作品は、大変良い傑作である。応募作品は風景、ネイチャー写真、組写真が少ない傾向にある。

(評者：審査員一同)

市展賞：岩佐 美枝子《情熱》

モデルの曲線美を大胆な構図で表現され、インパクトがある。加えて、背景は情熱的な赤の印象を、強く受ける。

(評者：審査員一同)

市展賞：日置 祥二《コンクリートオアシス》

コンクリートに囲まれた中のひととき。全体構図のなかで二人の人物の配置、大きさが抜群に良い。モノクロの中のカラー表現、雰囲気がとても良く、空気感が出ている。

(評者：審査員一同)

#### 【工芸】

審査講評：

出品点数が年ごとになかなか増えず。特に布類の作品が皆無でさみしい限り…。もう少し色々なジャンルの素材の出展が望ましい。

(評者：安藤 釉三)

市展賞：宮脇 陽太《天の川》

陶器の作品で釉薬の掛け方に工夫が見られ、釉の種類を掛け合わせることに焼き上がりの変化が見える作品です。

(評者：安藤 釉三)

市展賞：森田 恵吾《スイーリング ドラゴンフライ》

ティファニーという作家のレプリカ作品ではあるが、生物をモチーフとしたものは、重厚な色を使った作品が多い中、柔らかい色の組み合わせをうまくまとめている。鉛の線も均一で技術の高さもうかがえる。

(評者：大谷 治)

#### 【彫刻】

審査講評：

一般出品者4名となり、昨年度より2点ほど増加しましたが、数としては、少なく寂しさを感じます。作品を審査し、彫刻ではなく、工芸作品ではないか？と思える作品が多い印象をもちました。来年度も出品され、表現方法再考を期待します。

(評者：宗内 彰志)

市展賞：該当者なし

#### 【デザイン】

審査講評：

全体的にしっかり時間をかけてつくられた作品が多く、その一つ一つの筆の運びなど見させていただきました。構図や配色など評価できる作品もある中、ほとんどの作品がタイトルとの合致を感じられずコンセプトも見えにくいため、今回市展賞選出には至りませんでした。デザインとは何かを今一度振り返り、伝えたいことが伝わるデザイン作品を期待しています。

(評者：高田 雪枝)

市展賞：該当者なし